

# 一年目職員対談



令和5年入庁

国税庁 長官官房  
総務課 審査企画係

令和5年入庁

国税庁 課税部  
課税総括課 企画係

令和5年入庁

国税庁 課税部 酒税課  
酒類業振興・輸出促進室  
酒類業振興・輸出促進第一係

友部 瑠莉那

桑原 将

小林 大悟

## Q1. 国税庁を志したきっかけはなんですか？

**(小林)**  
元々国家公務員への憧れはあったのですが、就職活動をする中では何か軸を持てる職業人生を歩みたいという漠然とした希望がありました。説明会や官庁訪問を通して、「税」を軸に行政の幅広い業務に携わる職員の方々を知り、入庁したいと思いました。霞が関での制度設計と現場での執行の両方に関われるという話を聞き、面白そうな職場だと心惹かれたことも大きかったです。

**(友部)**  
総合職1次合格者対象の説明会に参加した時に、国税庁の明確な使命に共感し、自分自身もその使命を果たすことのできる仕事に携わりたいと思ったことがきっかけです。それまで、別の省庁を希望していましたが、組織として明確な使命があることは、今後働く上で一つの指針になると考えており、個人的に職場を決める上での重要なポイントであったため、自分自身が共感できる使命がある国税庁を志しました。

**(桑原)**  
一言でいえば、「税法が楽しかったから」です。法科大学院時代に税法担当教授が、税法がいかに面白く、最先端の分野であるかを教えてくださいました。私はそれまで、知財法に興味があったのですが、税法の面白さに惹かれ、税法に携わるローヤーになりたいと考えました。

しかし、弁護士として税法を扱える事務所は限られており、自分の理想に一番近い職場が国税庁であったことから、国税庁を志しました。

## Q2. 学生時代に打ち込んだものについて教えてください！

**(小林)**  
大学院での研究に打ち込みました。私は半導体デバイスの研究を行っていたのですが、電子顕微鏡でやっと見えるような大きさのものを作製していました。大変微小なものを扱うため実験は難しく、試行錯誤を繰り返してなんとか思い描いていた結果を出せたときは安堵したことを覚えています。一つのことに打ち込む面白さ・難しさを知れたことは得難い経験でした。ただ、分かっていたこととはいえ当時の知識自体が一切現在の業務に関わってこないのは少し寂しいです(笑)

**(友部)**  
ありきたりですが、塾講師のアルバイトです。昔から物事を人に説明して、理解してもらえるとというのが喜びの一つだったのでとても自分に向いているなと思いながら働いていました(笑)。自分の理解の仕方が全員に通じるわけもないので、説明のパターンを複数用意したり、説明する相手がどういったところを疑問に思っているのか考えたり、聞き出したりする必要があり、楽しくありつつも勉強にもなる時間だったなと思います。

**(桑原)**  
もちろん勉強は頑張ったつもりですが、人並みに(あるいはそれ以上に)遊んでいました。

趣味が読書だったので法学以外の本もたくさん読みましたし、お酒も大好きなので、先生・先輩・友人と飲みながら色々な話をしました。

## Q3. 現在どのような業務に携わっていますか？

**(小林)**  
私が所属する酒税課酒類業振興・輸出促進室では、国税庁が所管する酒類の輸出促進のために様々な取り組みを行っています。私自身は日本産酒類の輸出状況を取りまとめた「酒類の輸出動向」という資料の作成を担当し、この資料が国会答弁や関係議員・国税庁幹部への説明にも度々使われました。プレッシャーも感じますが、やりがいは大きいです。国税庁HPに公開されていますので是非ご覧ください！

**(友部)**  
私が所属している総務課審査企画係は、「国税庁の窓口」として、他省庁とのやり取り及び、それに伴う国税庁内の調整・取りまとめ役を担っています。その他にも、行政文書の審査や災害対応など多種多様な業務を行っています。他省庁や庁内の他課室がどういった仕事をしているのかを幅広く知ることができる業務です。

**(桑原)**  
現在は、国税庁が公表している「暗号資産等に関する税務上の取扱いについて」というFAQの取りまとめ作業を行っています。  
また、課税部における国会担当係との窓口係でもあるので、答弁書の作成業務に携わるなど、国会対応業務も行っています。

## Q4. 職場の雰囲気はいかがですか？

**(小林)**  
笑顔が絶えず、コミュニケーションがとりやすい職場です。困ったときには相談もしやすく、仕事を進めやすい環境ですね。また、ミスについては率直に指導してもらっています。忙しい時期もありますが、総じて1年目にとって仕事がしやすく育ててもらえる場所だと感じています。



**(友部)**  
とても良い雰囲気です。年上の職員の方しかいませんが、皆さん非常に話しやすく、同じ課はもちろんのこと、他課室の方にもとても助けていただいています。上司もとてもフランクなので、風通しがよく、動きやすいです。官庁訪問中に感じた職場の雰囲気の良さは、入庁しても変わらず感じることができているので、国税庁にしてよかったと思っています。

**(桑原)**  
想像以上に過ごしやすいです。国税庁、しかも課税総括課という名前とイメージから、コワモテの厳しい人に囲まれるのを覚悟していたのですが、みなさん優しく、笑いの絶えない職場です。

## Q5. 今後の目標を教えてください！

**(小林)**  
「税を軸にした行政官・社会人になりたい!」と思い入庁しましたが、酒税課の業務だけでもその奥の深さに驚いています。さらに同期や上司・先輩の幅広すぎる経験談も聞いていると「税を軸にする」のは道のりが長いことだと痛感しています。今の目標は、少しでも早く組織を支えられる人間になれるように周りの方々の仕事を吸収していくことです。あとは、何よりも明るく働いていきたいですね。

**(友部)**  
税について人に教えることができるようになることが目標です。現在の仕事が「国税庁の窓口」なので、国税庁の取組等について他省庁から説明を求められることもあり、税について知識があるだけでなく、理解してもらおう伝えることの重要性を感じています。国税庁総合職職員はほぼ毎年異動があるため、1年間配属先の分野について深く知ることを積み重ね、広く深く税について語ることができるようになりたいです。



**(桑原)**  
とにかく小さなミスをしないように、丁寧に仕事をこなしていくことです。もともとが大雑把な性格なので、細かなところに注意がいけないのですが、繊細さが求められる仕事も多いので、人一倍気を付けなければと思っています。

## Q6. 最後に、学生の皆さんへメッセージをお願いします！

**(小林)**  
ニュースで「霞が関が不人気だ」という話が聞かれる中、この職場を選んだことに不安がなかったといえば嘘になりますが、今は後悔していません。好奇心を刺激される業務が多く、充実しています。少しでも霞が関の仕事に興味があれば、飛び込んでみてください！国税庁に興味をもっていただいたならば嬉しいです。面白い職場だと思います！

**(友部)**  
学生のうちからやりたいことが明確に決まっている方はなかなかいないと思います。決まっても、「実際に働いてみたら違う」ということも起こり得ます。だからこそ、パンフレットであったり、説明会等で職員の方とお話をしたりと色々なものに触れて、自分のやりたいことを明確化したり、自分の持っている認識に齟齬が生まれなさそうか探っていくことが重要です。たくさん迷いつつも、時には自分の直感を信じて納得のできる決断ができるよう応援しております！

**(桑原)**  
私は就活という就活が国税庁だけだったのですが、それでもかなり心をすり減らしました。複数の企業・官庁を受験される学生の皆さんは、より大変な思いをされると思いますが、その辛さが報われるだけのやりがいを感じられる職場だと思います。ぜひ国税庁を志望してみてください。

